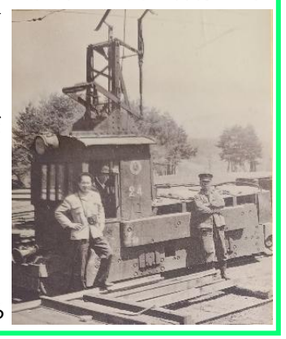
My GEO STORY vol.35

地元を愛するみなさんを紹介するコーナー

北軽井沢地域支援員
（長野原町役場　未来ビジョン推進課所属）

湯本　淳一　　氏

私の職場事務所は、旧草軽電鉄北軽井沢駅の駅長室兼駅員事務室にあります。電車好きの小学生からは「駅長さん！」て呼ばれています。
この北軽井沢駅は、昭和２９年から私は関わっていると思います。いや関わっていますね何と７１年前からですね。当時我家は駅から１００ｍも離れていませんでした。１２才まで住んでいましたので、長野原町立第３小学校を卒業するまでは休みの日も含めて１２年間３６５日毎日北軽井沢駅舎を見てきました。
当時、草軽電鉄の人気運転手の丸山さんは母の義理の兄になりますので、叔父さんの運転で母の実家芦生田（実家は駅の前）までよく乗せてもらい、駅には私が５才なので必ず祖母が迎えに来てくれてました。叔父さんは９８才まで長寿で、私が仕事の関係で某会社の三原にある明和寮に住むことになり、その寮は偶然にも叔父さんの家の斜め前にありましたので寮にいた３年間草軽電鉄の話を聞くことになり、叔母さん（母の姉）含め三人で草軽電鉄の昔話で盛り上がりました。叔父さんが一番廃線で悲しかったのは、レールを片づける時だったそうで泣きながら最後まで作業したそうです。
廃線から６３年北軽井沢駅舎は、北軽井沢住民に守られて今日があります。これからも北軽井沢住民の皆様・町民の皆様　どうぞ北軽井沢駅舎をよろしくお願い致します。
私も駅舎で頑張ります。
読者の皆様ぜひ旧草軽電鉄北軽井沢駅舎に遊びに来てください。
お待ちしております。



デキ12型を使って撤収作業をすすめる。
（カブトムシ）は最後まで働き続ける

ジオジオ豆知識 vol.35

長井淳一建築アトリエ

長井　淳一　　氏

「鎌原の郷倉」みんなの力で保存した地域の文化財

嬬恋村指定重要文化財「鎌原の郷倉」は、江戸時代後期の建設と推測される地域の備荒貯穀の蔵です。老朽化のために令和元年から令和５年３月にかけて保存整備工事が行われました。嬬恋村と鎌原区が主導し、整備検討委員会で協議しながら進みました。
鎌原の郷倉には柱がなく、せいろう組みという構法でアカマツの一枚板を伝統的な仕口で積み上げています。板の厚さは9cm前後、高さは10～27cm、土台部分はクリ材を使用しています。解体した部材には江戸時代の大工が番付した墨書や、当時の手斧痕跡を見ることが出来ました。できるだけ当初の部材を生かしながら、耐震性能を考慮して傷んだ箇所の部分的な交換や金物で固定をする等の補強をしました。再使用割合は78.28%です。
土壁は全部落とし、使えるものは再利用しました。鎌原では、かつて小熊沢のカベトリバで採取した土を家や蔵や田んぼに使用していました。今回もここで土を採取し、古い土と混ぜました。水と藁を加えて発酵させると粘り気が出て、乾くと丈夫な壁になります。壁土を固定させるために板材の外側には10ｃｍ程の木釘が無数に打ち込んであります。ここに壁の下地となる団子付けを行う作業は地域の皆さんで行いました。
屋根も当時の共同作業に倣って修理をしようということで、ご提供いただいた茅場にて皆さんで茅刈を行いました。茅は嬬恋郷土資料館の軒下で乾燥させ、部分的に使用しています。
鎌原の自然・知恵・歴史・思いの詰まった素晴らしい建物を、地域の力を合わせて守ることができました。

壁の団子付け作業

完成

アンケートに答えると毎号5名様にハンドブック（非売品）が当たる！

アンケートはこちら

春のイベント情報！

ＧＷ期間中	浅間牧場周回遊歩道ジオツアー
GW日程未定	GWジオパークイベント
5月24日（日）	日本の名勝　吾妻渓谷ツアー
6月7日（日）	スカイロックトレイルツアー

発行：浅間山ジオパーク推進協議会
Mt. Asama Geopark Promotion Council
制作担当：広報・観光委員会

〒377-1524 群馬県吾妻郡嬬恋村大字鎌原494-45
TEL/FAX：0279-82-5566
URL：www.mtasama.com
E-mail：info@mtasama.com
Facebook：www.facebook.com/asamageopark
Twitter：https://twitter.com/home

ガイドの受付しています

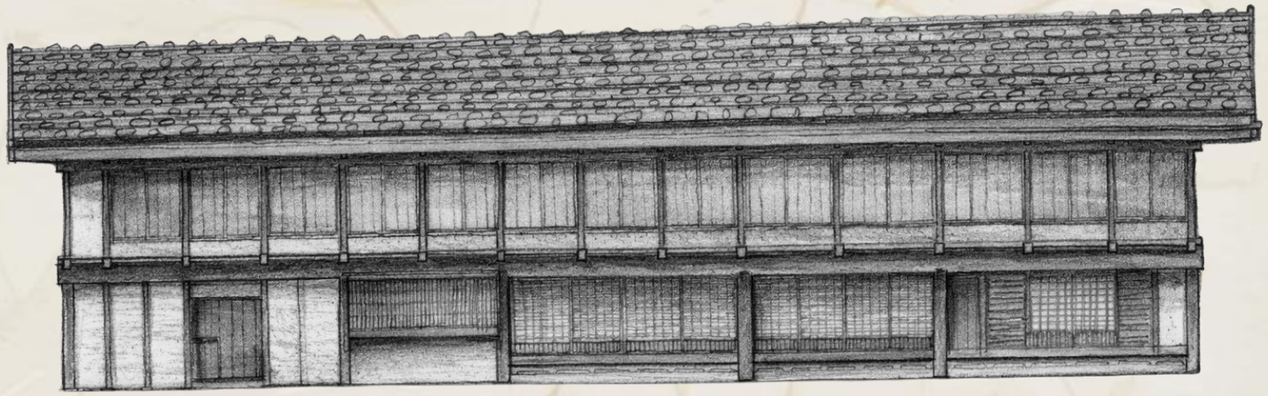
「浅間山北麓ジオパークガイドの会」の認定ガイドによる案内の受付をしております。ご希望の方は、左記、推進協議会事務局までお申し込みください。
[料金]＊ガイド1名あたりの値段
平　地：半日6,600円　1日13,200円（参加者11名以上ガイド2名）
軽登山：半日11,000円　1日16,500円（参加者8名以上ガイド2名）
登　山：　1日27,500円（参加者8名以上ガイド2名）

編集後記

年度末になり、何かと忙しい毎日ですが、来年度はジオパークのツアーが盛りだくさん！準備に追われていますが、前進できたといえるよう、邁進していきますので、よろしくお願いします！

GEOPARKS JAPAN 日本ジオパーク
Mt. Asama North GeoPark
浅間山北麓ジオパーク通信
あさまびと
ASAMA-BITO
2026号
Vol.36
地域の成り立ちから、地球の成り立ちを知る
SDGs × ASAMA

特集：貴重なもの再発見：建築物



旧狩宿茶屋本陣（長野原町応桑）

調査により描き起こされた正面（北面）立面図。間口15間の相当大きな建物だったことがわかる

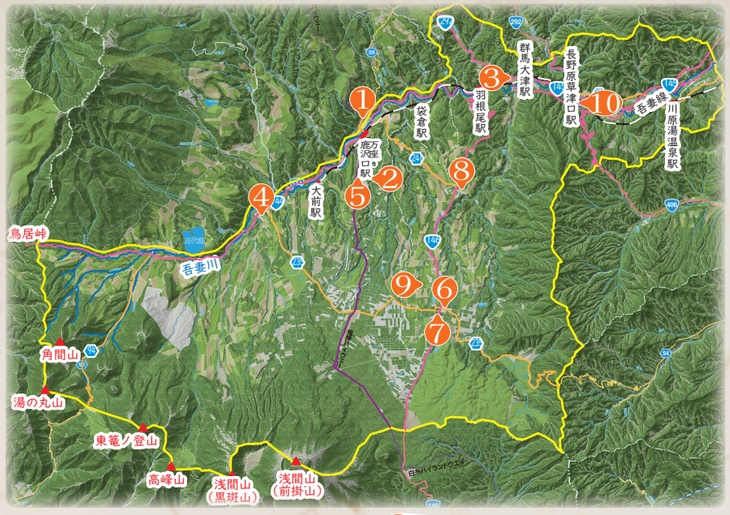
明治期の建物内部の復元平面図。旅館業を終えてからは2階は蚕室として使われた

令和8年度は、貴重なもの再発見と題して、古代から現代に至る時代の中で、人が造ったもの、あるいは自然によって育まれてきたもので我々の身近な所で観ることが出来る貴重なものを4回に分けて紹介していきます。それらが鎮座する場所も掲載しておりますので是非足を運んでみて下さい。

編集部員イチオシの建造物

数ある建造物の中で、当時の面影と語り掛けてくる重い歴史が漂う、十か所の建造物を選んでみました。

これらの前に佇むときっとその時代にタイムスリップできますよ！



1 旧三原郵便局舎（きゅうみはらゆうびんきょくしゃ）

時代を超えて佇む、明治生まれの郵便局

代々名主の家柄でのちに嬬恋村の初代村長となる篠原仙吉氏は、明治 13 年（1880）に所有地内に郵便局を開設しました。その後、明治 30 ～ 40 年頃にこの郵便局舎が建てられました。県内に現存する単独の局舎としては最古で、和洋折衷の建物は地元の大工に東京で技術を学ばせて建てられたと伝えられています。軒下の持送りの装飾も愛らしく、先人の遊び心を感じさせます。

2 郷倉（ごうぐら）

村を守った、命の蔵

郷倉は、天明 3 年（1783）浅間山噴火災害後に建てられた江戸時代のものです。噴火や飢饉などの非常時に備えて米や粟、稗などの穀物を蓄え、困窮した村人に分け与えるための共同倉庫として重要な役割を果たしました。災害への備えを地域全体で担う仕組みです。助け合いと自治の精神を今に伝える歴史的価値の高い文化遺産です。

3 防空監視哨跡（ぼうくうかんししょうあと）

空を見上げる理由が違った時代の遺産

太平洋戦争中に使用された防空監視哨（聴音壕）で、音で敵機のエンジン音を聞き分け、機種、数、進行方向などを判断して本部に連絡するのが任務でした。構造は煉瓦の二重積みで、音を集めやすいように上部の縁がラッパ状になっています。15 ～ 16 歳の青年が 24 時間体制で監視にあたっていました。中に入ることはできませんが、近くで見学ができます。

4 大笹関所跡（おおざさせきしょあと）

旅人を見送り迎えた上州の入り口

上州と信州を結び多くの旅人が行き交った信州街道（大笹街道）。その途上の重要な関所として、200 年以上にわたり往来を取り締まりました。関所を越えると道は一本が大前村へ、一本は鎌原村から大戸村を経て高崎へ続いていました。現在も国道 144 号で鳥居峠側から関所を過ぎると大笹宿の面影を残す家並みが続き、旅人で賑わった往時を偲ぶことができます。

5 鎌原観音堂（かんばらかんのんどう）

生死を分けた運命の 15 段

鎌原観音堂は、天明 3 年（1783）の浅間山噴火の際、村人が鎌原土石なだれから逃れて駆け上がった避難場所です。多くの命を救った歴史ある建物です。当時の災害惨状の記憶や被災からの復興経過を今に伝え続けています。地域や私たちにとって防災意識を高める建造物として、大きな価値をもっています。天明 3 年より 70 年前に建てられました。

6 旧草軽電鉄北軽井沢駅舎（きゅうくさかるでんてつきたかるいざわえきしゃ）

多くの人が利用した今はなき路線の面影

旧草軽電鉄は、大正４年（1915）軽井沢～小瀬温泉間を皮切りに北へと延び大正 15 年（1926）に草津までの全線が開通し、22 ヶ所の駅がありました。
その中で唯一現存しているのが北軽井沢駅です。当初地蔵川停留所と呼ばれていましたが、昭和５年（1930）法政大学の学長によって新設寄贈され北軽井沢駅となりました。平成 18 年（2006）浅間高原の歴史を語る貴重な建物として国の有形文化財に登録されています。

7 北軽井沢ミュージックホール（きたかるいざわ）

今なお響く音楽の調べ

昭和 43 年（1968）に日本初の学生のためのオーケストラ夏期合宿所施設「山の音楽堂」として開設され、多い時で年間 4000 人に使われていました。昭和 58 年（1983）に当時財団法人北軽井沢ミュージックホール理事長だった世界的指揮者の小澤征爾氏が、土地と建物を長野原町に寄贈しました。半屋外のホールは風を感じ鳥たちの声をバックに音楽を楽しむことができます。現在は夏季にコンサートが行われています。

8 旧狩宿茶屋本陣（きゅうかりやどちゃやほんじん）

静けさの中に残る江戸の宿場の記憶

狩宿新田は、信州街道と沓掛街道が交わる場所にあり、寛文４年（1664）に関所が設けられ、江戸時代には重要な宿場町として栄えました。関所が設けられたことで、大名や武士が休息するための茶屋本陣が整備され、旅籠や茶屋、馬宿などが軒を連ね、行商人や草津に向かう湯治客、善光寺参りの旅人などで賑わいました。国の有形文化財に登録されています。

9 旧田中銀之助別荘（きゅうたなかぎんのすけべっそう）

緑の中の最古の洋館

明治から大正時代に活躍した実業家・田中銀之助氏の別荘として、大正９年頃（1920）に建設されました。この地域最古の洋館と言われ、100 年以上経過した建物ですが、モダンで今でも「ルオムの森」の中心施設として活用されています。
ルオムとは、フィンランド語で「自然に従う生き方」と言う意味で、四季折々の自然の中でゆっくりと過ごせる人気のスポットとなっています。

10 久々戸遺跡（くぐどいせき）

最古級の敷石住居跡

今から約 4000 年前の縄文時代中期末の住居跡です。床面全面に石を敷き詰めた形式の建物跡で、敷石が良好な状態で残っている事例としては最古級のものと考えられています。さらに、縄文土器、長さ 80 センチの石棒、石皿、磨石、凹石なども出土しました。現 在は長野原町住民総合センターで床下展示されており、どなたでも見学ができます。

相互応援協定

相互応援協定とは、地域発展のため、地域社会への貢献と活性化を目的とした取り組みです。

食事処　水車

食事処水車は、どこか懐かしさを感じさせる佇まいの食事処。店名の通り水車が目印で、地元・群馬の食材を活かした手づくりの味が楽しめます。定食やそば、うどんなど素朴で温かみのある料理は、観光客はもちろん地域の人々にも親しまれています。ゆったりとした店内で、旅の途中のひと休みや家族での食事にもぴったりのお店です。